

2010年1月、2月、3月度の総括

進学塾ビッグバン

松原代表 DIARY 抄

1月1日 故郷：岐阜県下呂市の神社に初詣。合格祈願。

どこに行こうとしているのかわかっていなければ、どの道を通ってもどこにも行けない。

(ヘンリー・キッシンジャー 元米国国務長官・国際政治学者)

それはそうだ。私たちの授業も、「医学部合格」というゴールから逆算して、受験指導のルートを築き、そのルートから一ミリも出ることなく進めてきたはずだ。ここに不明な点など何一つない。この道を進めば「合格」以外にない、と断言できる道を構築してきたはずだ 確かにそう思う気持ちにうそ偽りはありません。

ヘンリー・キッシンジャーは、60年代から70年代にかけて大統領補佐官として世界を飛び回ったアメリカ合衆国外交官です。民主主義の理想ではなく、反共を旗印に、アメリカ合衆国にとって害がなければ、どんな軍事独裁政権でも容認する、アメリカ中心の超現実主義者でした。もちろん、賛否両論は渦巻き、彼にノーベル平和賞が付与されると決まった時は、賛辞と同時に、同じ数だけ、いやそれ以上のブーイングが向けられました。

当時、若く、理想主義に燃えていた私は、このキッシンジャーと、無慈悲にベトナム戦争を推し進めるアメリカが大嫌いでした。おそらくその頃若者であった多くの人もそうであったろうと思います。

だが、あれから世の中は変化しました。私たちも職業を持ち、家庭を持ち、理想だけでは生きられないことを知りました。こういうとき、ユダヤ人としてナチスドイツの迫害を受けたのちアメリカ人になった歴史を持つキッシンジャーの無慈悲で現実的な生き方が、改めて私たちの胸に迫ることになったのです。すると、冒頭に述べたこの言葉が、ものすごいリアリティをもってよみがえってきました。

「どこへ行こうとしているのかわかっていなければ」というとき、その背後にあるのは、自らの力への飽くなき信頼であり、それは「強いアメリカ」への絶大なる信仰であったはずです。「どの道を通ってもどこにも行けない」というとき、理想などは、モチベーションの構築には役立っても、結果を保証するものではない、という冷ややかな認識を示しています。

平和国家ニッポンの受験生を見てください。キッシンジャーの言葉をそのまま受験にあてはめれば、「医学部に行こうとしている方法に目覚めていなければ、どんな勉強法も無駄である」と読むことができます。

そうです。私たちは、キッシンジャーやアメリカが大嫌いであった心の時代を持つにもかかわらず、キッシンジャーのこの言葉を「進学塾ビッグバン」において具現してきたのでした。それは自信を持って言えます。ほら、ビッグバンの合格者を見ってみよう。ビッグバンがやれと言ったことをやった人は皆受かっている。これは、ビッグバンのやり方が全く間違っていなかったことを明かしているし、この道を完全にまっとうすれば必ず合格する。みなそれを信じている。この道をまっすぐ進めば、必ず「合格」のゴールが見えてくる。

これは私たちが10年かかって築き上げたまぎれもない実績と誇りです。

だが、私は、やはり不安でたまらないのです。たたかうのが若く心もとない魂たちであり、相手もまた、不完全に違いない試験官たちだからです。人間が人間を裁く。それで裁かれる側の人生が決まるのです。結果はいつも冷厳です。人生が決まるのです。祈るしかないのです。私は、例年と同じく、生まれ故郷の古びた神社に行き、朱色の剥げた鳥居をくぐり、自分の家族のことと、ビッグバンの生徒のことを祈りました。これは科学の世界を超えています。超えていてもかまわないと思います。最後は祈るしかないと思います。誰にも恥じ入ることなく、私は、来年からも、生きている限り、ビッグバン生全員が合格することを「祈る」ことを続けていきます。

- 11 日 帝京大医学部対策講座ほか実施。茨木神社に十日戎参礼。とある神戸の女子高 S 教諭と、センター試験前情報交換。発音アクセントプリントが素晴らしい出来栄で、それをいただき、センター受験生に配布。10 点はアップするだろう。
- 12 日 帝京大医学部対策講座ほか実施。上京。昼：東京の教え子 K 君母・子と進路面談。
夜：アメリカ在住日本人向け補習校の S 教諭と、帰国子女枠についての会談。
- 13 日 東海大学医学部対策講座実施。講談社にて、次作の打ち合わせ。
- 15 日 兵庫医科大学対策講座実施。
- 16 日 センター初日。インフルエンザ等が心配されたが、参加生徒全員遅刻・欠席なく受験したとの報にほっとする。
- 17 日 センター2 日目。午後 3:00 より「年度末講師会議」。最後の受験指導方針の確認と、来期に向けての指導方針の統一見解をまとめる。国試を控えた今西講師まで参加してくれ、生徒への熱い思いを伝えてくれた。夜、何人かの生徒が自己採点の結果を持ってくる。
- 18 日 岩手医科大学対策講座実施。センター結果を続々と持ってくる。各予備校の今年の予想平均点が出る。英語、国語、数学 A がやや難化、あとは昨年並みとの一致した見解。総体的にやや難化か。
- 19 日 金沢医科大学対策講座実施。ビッグバン生のセンター結果は、ロジ生は、まずまず。国公立医学部、私大医ともセンター逃げ切り型大学を選べば合格可能な生徒も何人か。
- 20 日 私大医学部の嚆矢：岩手医科大学入試実施。会場の大阪ガーデンパレスに激励に赴く。寮生は阪急茨木市駅集合。ここは厳格な実施スタイルで知られ、試験中にいったん外へ出るとそのまま中には入れない仕組み。
- 21 日 金沢医科大学入試実施。会場の天満研修センターに激励に赴く。寮生は阪急茨木市駅集合。かつてのビッグバン生にも再会。夜、上本町校にて高 2 生の新規入塾面談。
- 22 日 川崎医科大学対策講座実施。講座が終わって後、受験者全員スタッフ 2 名に引率されて、新幹線で岡山に向かう。向かう前に全員本部に集合、激励する。20 日、21 日、22 日と東京会場にて受験したグループのうち明日の川崎医科大学受験者は、スタッフの引率により、本日岡山のホテルにて合流予定。
- 23 日 東邦大学と川崎医科大学で入試。夜、私立高の S 先生を囲んで、英語、小論文担当講師と教務部長とで、センター試験の反省と展望をめぐって会談。
- 24 日 藤田保健衛生医科大学入試実施。
- 25 日 杏林医、全国私立医科大のトップを切って一次合格発表。ビッグバンからは受験者 4 名中 2 名合格。

26日 愛知医科大学入試実施。会場の新梅田研修センターに激励に向かう。同時に、今年から始めた解答速報即日配布のため、現地で貼り出されるテスト問題を接写し、パソコンを経由して茨木本部へ送る。解答ののち、名古屋、東京、福岡で待機中のスタッフに理科3科目のみ送り、そこでピラにして試験を終えて帰る愛知医科大受験生に撒く。

金沢医科大一次合格者14名(受験者20名中) 数字的には快挙。川崎医科大は9名合格(受験者15名中) これもまた快挙。夜、千葉幕張メッセ横アパホテル泊。翌日の順天堂受験生の付き添い。

本年度から、医系大学の解答速報を撒くことにしました。実験的に今年は愛知医科大学と大阪医科大学の2校にしました。生徒が受験を終えて帰るまでに、問題入手+解答+印刷+配布準備までを行わねばならず、何よりも解答の精度が問われるものですが、同じように実施していた3つほどの他の予備校がことごとく何箇所か間違いがあったにもかかわらず、うちは一つも間違えることなく、完答でした。内外に誇れる成果だと思いました。

27日 兵庫医科大入試、順天堂大入試実施。杏林医2次試験実施。岩手医科大一次合格者6名(受験者12名中)。明日の独協医科大受験組、宇都宮のホテルに全員無事到着との報。夜、東京グランドプリンスホテル高輪泊。

28日 独協医科大学入試実施。

29日 昭和大医 期入試実施。昼すぎ、講談社にて、拙著の販売状況の説明を受け、次作の打ち合わせに入る。

意外に(?) 売れ行きがよく、あちこちの書店で平積みされているのを見かけます。大昔、デビュー作が売れていたころを思い出しますが、あのころは、本屋に行けば「見られている」ような落ち着かない気分になったのに比べ、今は、風景の中に溶け込んだ単なる中年のおっさん、という淡々とした気分です。

30日 関西医科大学、北里大学入試実施。東邦医科大学、川崎医科大学2次試験実施。講談社の打ち合わせ2日目。次作の概要がほぼ決定。インターネットを経由したビッグバンへの問い合わせ50件を超える。

31日 近大医前期、埼玉医科前期、日本医科大入試実施。昨日に引き続いて東邦医科大学、川崎医科大学の2次試験実施。生徒の出発を見届けてから帰阪。金沢医大2次受験組は東京から金沢入り。夜、大阪より久留米大、東女医大、聖マリ大受験者が上京。

2月1日 久留米大、東女医大入試実施。愛知医科一次合格者8名。今日、明日2日にわたり金沢医科大2次試験。ほとんどの生徒が受験に出かけており、塾はほぼ空状態。みな無事受験会場に着いたとの知らせで事務もホッとしている。つかの間の平和。

2日 聖マリ大入試実施。夕方になり、何人が生徒が塾に戻ってくる。東京に残る生徒は岩手医科2次もしくは藤田保衛医大2次に明日参加する予定。

3日 岩手医科大2次、藤田保衛医大2次実施。高輪プリンスホテルにて対策講座始まる。

4日 慈恵医大入試実施。帝京大学医学部(1日目)入試実施。愛知医科大学2次試験実施。兵

庫医科大一次合格者 10 名。高輪にある某医療系雑誌編集部を訪ね、編集長と会食。

編集長は愛知県出身で東北大学理学部卒。私と同じ中部地方出身でありながら、大学は東西に分かれた、という話から始まり、東北大学での学生生活の思い出をあれこれ聞くことができました。私の大学生活を送った関西と、編集長の東北とでは、まったく違うことに驚き、笑いあいました。東北大学学生生活の最も大きな特徴は、雄大な自然との共生でしょう。聞けば聞くほど、関西学生生活には全く存在しないものにあふれていたんだなあと思いました。いずれにせよ、学生時代の記憶は鮮明ですね。特に浪人時代のそれは今でも触れると熱まで伝わってくる気がします。ビッグバンの生徒は、どんな思いを抱いて巣立って行くんでしょうか。

- 5日 帝京大学医学部入試(2日目)、愛知医科大学2次試験実施(2日目)
- 6日 帝京大学医学部入試(3日目)、東京医科大、東海大医学部(1日目)入試実施。
北里大医、兵庫医科大、昭和大医 期2次入試実施。
- 7日 東海大医学部(2日目)入試実施。北里大医、兵庫医科大、昭和大医 期2次入試実施。
- 8日 日大医入試実施。叔父の弔問のため帰省。
- 9日 獨協医科大2次入試実施。
- 10日 獨協医科大2次入試実施。大阪医科大前期入試実施。解答速報作成、頒布。ホームページへのアクセス、急に増える。この日、ダイレクトメール発送。
- 11日 福岡大医入試実施。女流将棋名人中井広恵氏来訪。

中井広恵氏はよく来てくださいます。話すたびに、大局観という思考方法について示唆を受けます。受験にも必要なことは間違いないのですが、どう具体的にその思考法を取り入れるか、いつも悩んでしまいます。中井氏は、また私の思考法に興味を持ってくださいますので、十分応えなければ、と思うと、自分で初めから整理しなくてはならず、これもまためんどくさくも楽しい作業です。

- 12日 送付したダイレクトメールのクレーム始まる。
- 13日 関西医、東京医、久留米医、慈恵医、聖マリ2次試験実施。
- 14日 富山県より初の来訪者。慈恵医、聖マリ2次試験実施。
- 15日 河合塾にて来期の契約。

来年で28年目に突入。まあ、よく、河合塾も私のような不謹慎極まりない人間を雇い続けるものだ、とそっちの方に感心します。というのも私が河合塾にスカウトされて入ったときには、影も形もなかった人が、今河合の講師やスタッフになって、私と同じ職場の空気を吸っているのですから。また思うに、ここまでやってこれたのは、河合一筋ではなく、ビッグバンなどあれこれやってきて、河合を二の次、三の次にしてきたことがそもそもの理由ではないだろうかと思います。一筋なんて、やはり性にあわなかったんでしょう。私はもともと浮気者だし、テンションの高い時も低い時もあります。高い時も低い時もストレスはたま

ります。どこかが絶えずはけ口になっていないと煮詰まってしまうだろうと思います。

- 17日 現時点で一次合格の出ていない生徒と面談。
- 19日 新築のビッグバン女子専用マンション見学。とても美しくセキュリティもしっかりしている。2Fの5室を借り上げることにする。
- 20日 妻がダウン。嘔吐と胃痛。保健センターに付き添う。福岡大医1次合格者7名。
- 23日 東京にて、夕刻より、神奈川歯科大学の理事長に面会。客員教授の内定をいただく。大阪医科大2次入試実施。
- 24日 福岡大医2次入試実施。
- 25日 国公立2次試験始まる。
- 26日 国公立2次試験2日目。
- 28日 現在まで、医学部一次合格者、全体の7割強。快挙と言っているのではないが。

医学部医学科1次合格者の数が7割を超えました。6クラス中少なくとも上位4クラス以上は、一次合格の切符を手にしたことになりま。もちろんまだ「合格」ではないが、たとえ今年駄目でも、この方向性さえ見失わなければ、来年は必ず合格することが保障されたも同然です。とにかくこの無選抜で集まってくれた生徒たちであるにもかかわらず、1次合格7割強は、合格しなかった生徒にとっても、塾にとっても、とても大きな意義を持つことでしょう。

3月1日 春期講習会第2ターム開始。

- 4日 生徒への朝夕食のサービスについての打ち合わせ。ついでに、茨木個別教室と高校生科の教室についての話題になり、様々な意見を交わす。

朝食を摂ってこない生徒が多いことは由々しき事態です。朝、炭水化物を体内に入れないことには知的作業ができません。何よりも朝からの一日のリズムが破綻してしまいます。夕食は、近くの仕出し屋さんから500円で持ってきてもらうことに。管理栄養士によるメニューということで試食したところ、意外に(?)美味だったので、これで行こう、ということになりました。子どもを持つ身からすれば、朝、夕のしっかりした食事を提供してもらえることは、大歓迎のはず。今年の改革の目玉になりそうな案でした。

- 5日 大医2次対策を受けた生徒二人から、直前対策授業そのまが出題されたとの報あり。今年、川崎医科大で直対の数学一問丸々の中、久留米大医学部：生物で何と脳梗塞の問題が出たのだが、わが生物科の精鋭講師は見事的中させていた！何というビッグバン授業の素晴らしさ。目頭が熱くなるほどの感動を覚えた。

的中はビッグバンの十八番です。偶然的中するものではありません。過去問を調べ、出題する先生を調べ上げ、その先生の専攻分野を調べ、出題分野を絞り込み、そして・・・となりますから、これは「必然」なのです。私が河合塾で長年携わってきた「大阪大学プロジェクト」

では、大阪大学のテキストと模擬試験を作成するのが主な仕事なのですが、最も大きな成果は、入試問題の「的中」です。この「的中」のために、様々な角度から試みるのですが、なかなか果たせられませんでした。

一度だけ、「的中」がありました。

大阪大学入試問題の大問は、例年 70 字前後の英文で書かせる自由英作文問題なのですが、ある年の 2 学期テキストの第 2 講で次のような予想問題を立てました。

「外国人である 20 歳代のあなたの友人があなたの家にホームステイすることになりました。その人に日本のどこかに連れて行ってあげるとしたら、どこに連れて行ってあげますか。理由もつけて 70 字前後の英文で書きなさい。」

それで、私たちの用意した、いわゆる模範解答の一つは、

「四条河原町に連れて行ってあげたいと思います。理由は、京都という日本の古い伝統と、近代都市の繁華街である四条河原町という日本の二つの対照的なイメージを一気に体験させてあげられると感じるからです。」を英訳したものとしました。

これが、その年の大阪大学大問で、そっくり出たのです。

何人かの生徒が、喜び勇んで報告に来てくれました。うち 1 人は、センターでの大幅なビハインドにもかかわらず、阪大医学部に合格した、と言いました。模範解答を暗記していたので、そっくりそのまま「満点」の答案を書いたと言っていました。

やっぱり、入試は、暗記していたものがそっくり出るに越したことはない。そう思いました。

でも、こんなことはそうあるものではない、と思います。大阪大学プロジェクトの時もこの時限りです。

それはそうです。大阪大学の入試問題作成の先生方が、そう簡単に予備校屋ごときにしつぽを捕まえられないはずはないからです。

ところが、私立医学部となりますと、結構「しつぽを捕まえやすい」のです。なぜなら、問題作成の先生が、阪大などの総合大学の教養部の先生と違って、専門の先生であることが多いからです。それは、単科大学であることが多い私立医系大学では、5 年時、6 年時は、医師国家試験対策を行うため、もはや 1, 2 年時で教養課程をやっているひまもなく、いきなり 1 年時から専門課程に入っているところも多く、教養部そのものがなくなっていることが多いのです。教養部の先生がいないと、専門課程の先生が問題を作らざるを得ないか、外注に頼るか、のいずれかになるのです。変に偏った問題になることもあります。そこが狙い目なのです。受験に関しては、こちらはプロ、あちらは素人、ということになるからです。

それにしても、「的中」は素晴らしい。これは何度でも自画自賛しておきたいと思います。

そして、試験会場でそれが「的中」であったことがわかるようにしておくのも肝心です。つまり、繰り返し、暗記するほどまで、その問題を頭の中に刷り込んでおくことが大切だ、ということです。

7日

「医学部受験生を持つ親子のつどい (= 入塾説明会)」に 6 組。

8日

近大医学部後期入試実施。いつものように、阪急茨木市駅に集合してから会場へ。

10日

大阪医科大学後期入試実施。あとは昭和 期を残すのみ。ただし昭和 期の受験生はビッグバンにいないので、実質大医後期が最後。

11日

新規生徒の来訪、問い合わせが増え始める。でも今年は出足が遅い。例年より2,3週間遅い。

21日

大阪医科大学とのコラボ企画「今年度入試を振り返って、来期への展望」と題するイベント実施。新規入塾を決めた生徒やその保護者の方々をお招きし、大医からは入試担当者の方にご参加いただきました。ビッグバンからは各教科の主任講師が参加しました。私が司会を務めながら、採点の仕方 選抜の基準 物理、生物選択の有利不利 等の話をさせていただきました。

知的高揚感あふれる非常に意義深いイベントでした。入塾を迷っている生徒、保護者の方がいたら、このイベントで一気に、ビッグバン入塾に傾くでしょう、と言えるほどのものでした。「講師のビッグバン」の名に加え、「イベントのビッグバン」の名をも欲しいままにしそうでした。

27日

スタートアップパーティー

いわゆる「合格祝賀会」なのですが、本来の趣旨は、合格した子も不合格だった子も、みんな何らかのスタートを切る。合否にかかわらずみんな来ようよ！というものです。

以前の合格者も来ましたし、以前ビッグバンに勤めていた講師の先生も来られました。いつもそうですが、みんな明るかったです。浪人時代しか知らない私たちにとってみれば、一番暗い時代を共有していたわけですから、無理もないことですが、それだけいっそう新鮮に映りました。「人生の行く方向が定まった学生」の明るさを見ることほどうれしいことはありません。一般学生は不景気で就職もおぼつかないことも多いようですが、ここだけは違いました。それだけ勉強したということ、親のサポートがあったということでした。

2010年3月末日

進学塾ビッグバン 松原好之(文責)